

放課後等デイサービスおよび児童発達支援事業所 における医療的ケア児受入の関連要因

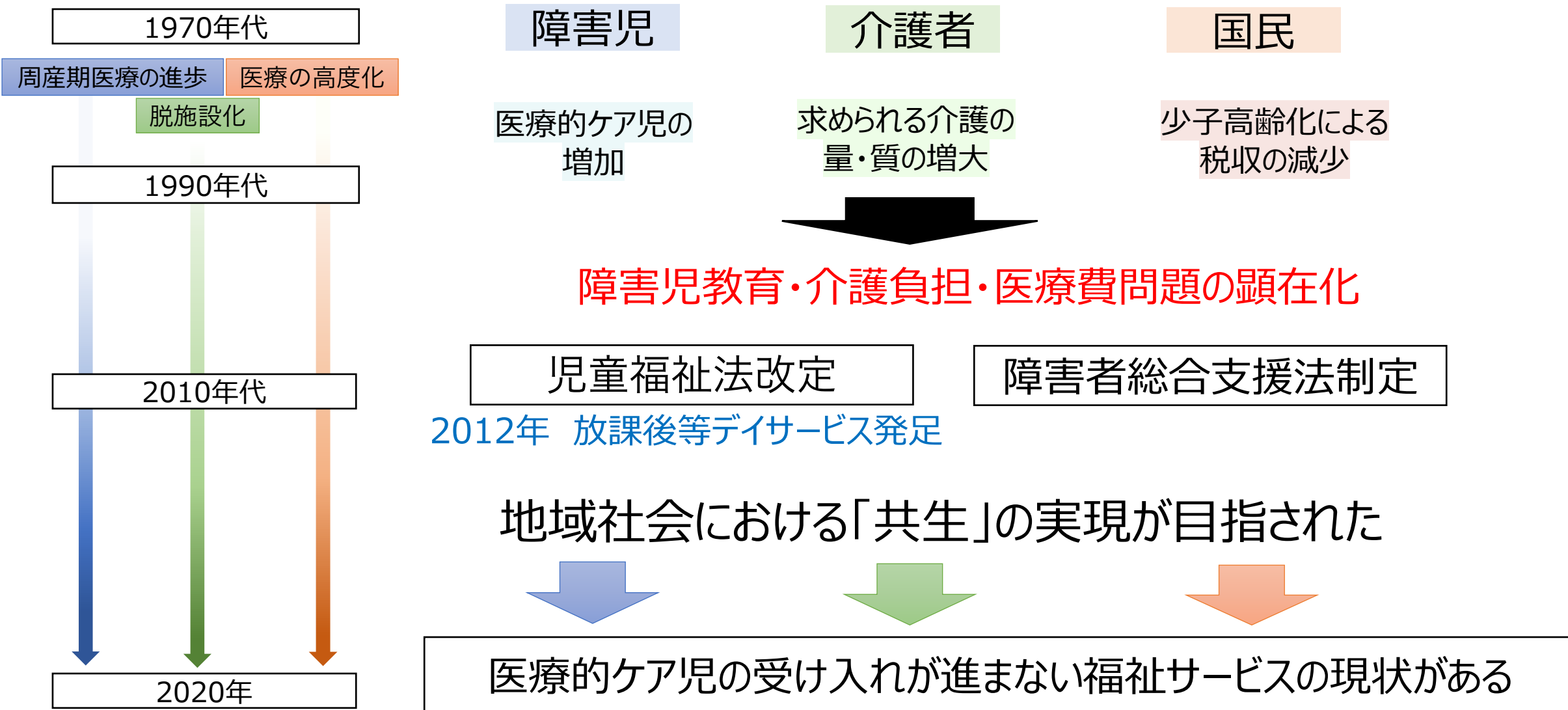
日本看護科学会誌 J.Jpn. Acad. Nurs. Sci., Vol. 41. pp. 29-36, 2021.

医療的ケア児を受け入れるための必要条件とは？

大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター保健管理部門

大槻 奈緒子

障害児を取りまく社会背景

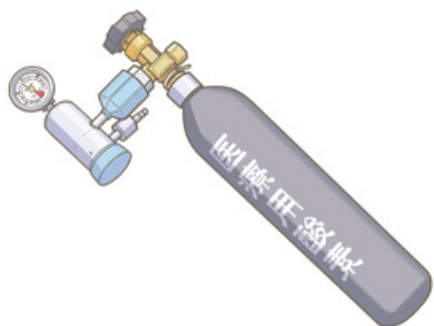


医療的ケア児



NICU 等に長期間入院した後，引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し，たんの吸引や経管栄養など医療的ケアが必要な障害児（厚生労働省，2016）

本研究では，放課後等デイサービスおよび児童発達支援の対象年齢である未就学児から高校3年生までの医療的ケア児を「医療的ケア児」とした



放課後等デイサービス

学校に就学している障害児に対し授業の終了後又は休業日に、
生活能力の向上のために必要な訓練・社会との交流の促進・
その他の便宜を供与するサービス

※平成24年児童福祉法依拠

＜放課後等デイサービスの基本的役割＞

1. 子どもの最善の利益の保障
2. 共生社会の実現に向けた後方支援
3. 保護者支援



放課後等デイサービス（児童発達支援含む）の課題

医療的ケア児の
受入も期待されている



スタッフ配置の基準

- ・障害児10名以下にスタッフ2名,
以降5名間隔にスタッフ1名
- ・スタッフの保有資格の厳格な区分なし
- ・看護師は加配加算

家族介護者の声

- ・医療的ケアに対応してもらえるのか？
- ・状態変化に気づいてもらえるのか？
- ・通い慣れてもすぐに廃業してしまう

医療的ケア児を受け入れるために必要な条件は何か？

研究目的

全国1,556 か所の放課後等デイサービスおよび児童発達支援事業所を対象に、郵送質問票調査による横断研究で医療的ケア児の受入有無の関連要因を検討する。

研究方法

研究デザイン

郵送調査による横断研究

対象者

2018年12月末時点で「放デイどっとこむ」に記載されていた全国1,556 か所の放課後等デイサービスおよび児童発達支援事業所

独立変数

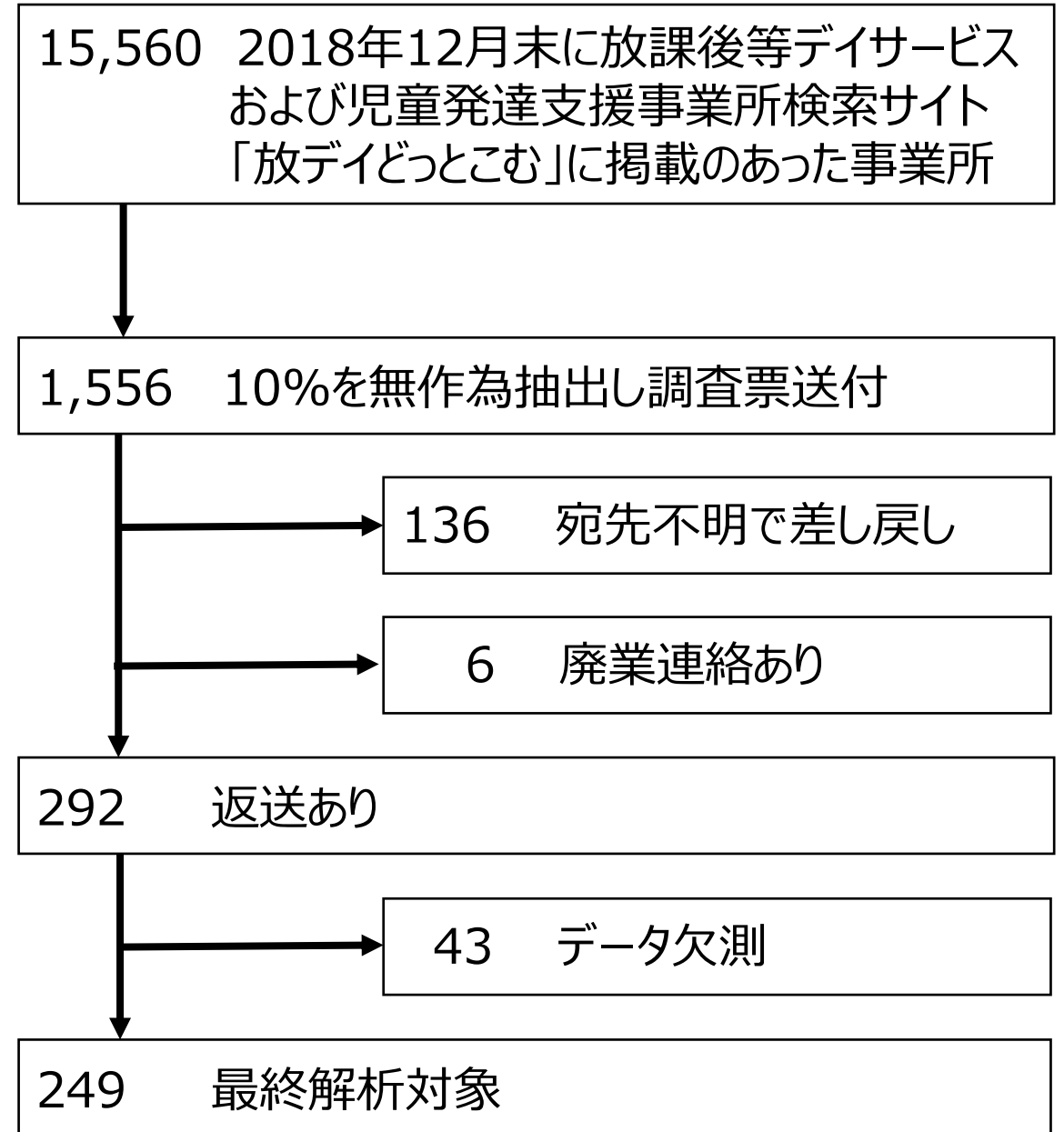
施設基準, 連携, レスパイトケアの有益性認識, 放課後等デイサービス自己評価表

従属変数

医療的ケア児の受入

統計解析

ロジスティック回帰分析



研究方法：調査項目

研究デザイン

郵送調査による横断研究

対象者

2018年12月末時点で「放デイどっとこむ」に記載されていた全国1,556 か所の放課後等デイサービスおよび児童発達支援事業所

独立変数

施設基準，連携，レスパイトケアの有益性認識，放課後等デイサービス自己評価表

従属変数

医療的ケア児の受入

統計解析

ロジスティック回帰分析

①事業所情報および利用者特性

【事業所情報】

開設主体や実施主体
併設施設や事業があるか
医療的ケア児受入に関する設備の有無
事業管理者の職種
事業所スタッフの配置

【利用者情報】

医療的ケア児の受け入れの有無
身体障害者手帳および療育手帳の等級
利用者の利用状況

②レスパイトケアの有益性の認識

子どもの発達
家族介護者の休息と生活の充実
家族介護者の精神的支え
視野の拡充と将来への展望

研究方法：調査項目

研究デザイン

郵送調査による横断研究

対象者

2018年12月末時点で「放デイどっとこむ」に記載されていた全国1,556 か所の放課後等デイサービスおよび児童発達支援事業所

独立変数

施設基準，連携，レスパイトケアの有益性
認識，放課後等デイサービス自己評価表

従属変数

医療的ケア児の受入

統計解析

ロジスティック回帰分析

③地域での連携指標

他の施設の関係者とやりとりができる
地域の他の職種の役割がわかる
地域の関係者の名前と顔・考え方がわかる
地域の多職種で会ったり話し合う機会がある
地域の相談できるネットワークがある
地域のリソースが具体的にわかる

④放課後等デイサービス自己評価表

※厚生労働省が作成

利用定員とスペースとの関係が適切か
職員の配置数は適切か
バリアフリー化の配慮は適切か
事業改善・目標設定へのスタッフ参画
記録の適切記載と支援の検証・改善
子どもの発達や課題について保護者と
共通理解を持っているか

結果

医療的ケア児の受入有無の関連要因（多変量ロジスティック回帰分析） n=249

	オッズ比	95%信頼区間		P値
		下限	上限	
訪問看護ステーションの併設	4.55	1.04	19.90	.044
事業開設理由が「事業拡大」	0.60	0.17	2.13	.428
看護師の人数	14.94	6.47	34.52	<.001
連携指標「地域のリソースが具体的にわかる」	1.18	1.00	1.39	.049
レスパイト有益性指標「子どもの社会性が向上した」	0.53	0.24	1.16	.111
自己評価表「利用定員とスペースとの関係が適切」	1.39	0.82	2.34	.223
自己評価表「職員の配置数は適切か」	0.81	0.50	1.32	.393
自己評価表「事業改善・目標設定へのスタッフ参画」	0.65	0.40	1.05	.078
自己評価表「記録の適切記載と支援の検証・改善」	0.66	0.30	1.44	.292

考察：医療的ケア受け入れには看護師配置が必要

看護職の期待される役割



全身状態の観察や
医療的介入



医療と介護をつなぐ

地域リソースの
把握と活用

考察：医療的ケア受け入れにはケアの質担保が必要

放課後等デイサービス

- 2012年の制度発足以降、著しく増加している（小澤，2018）
- サービスの質の担保が今後の課題である（小澤，2018）

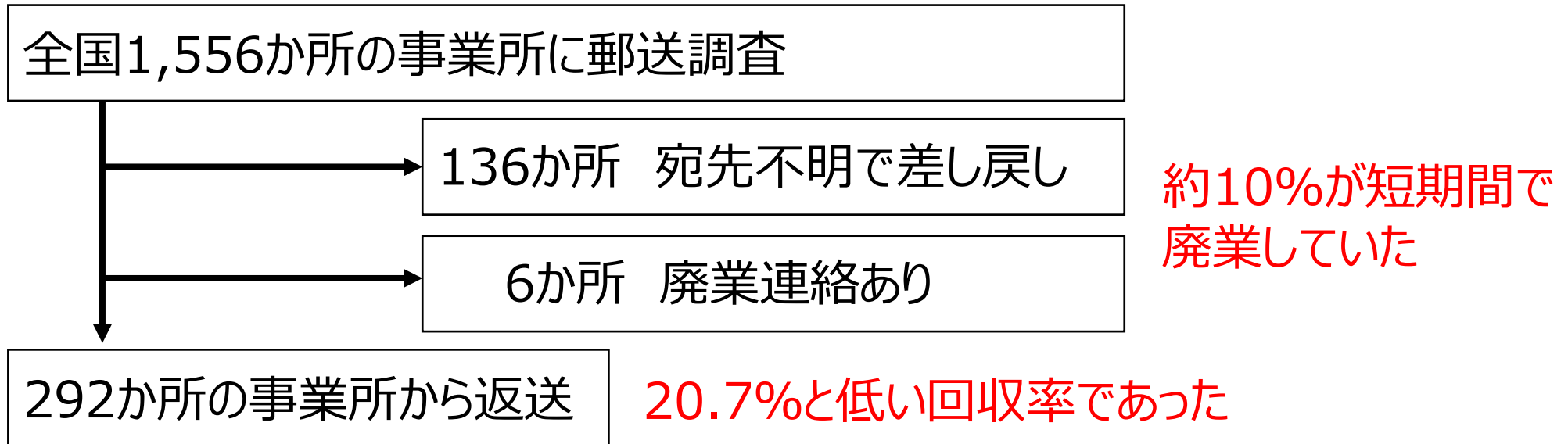
本研究の結果：看護師配置が1名増えると医療的ケア児の受け入れは15倍

医療的ケア児を
受け入れるためには・・・

これまでの対応：事業所そのものを増やす量的対応

これからの対応：看護師配置加算を強化するなどの質的対応が必要かもしれない

副次的な結果



回答した事業所の考えられる特徴として,

- ①開設理由が地域のニーズに即していること
- ②回答に耐え得る利用者の利用実績や医療介護事業の運営実績がある

まとめ

放課後等デイサービスおよび児童発達支援での 医療的ケア児の受け入れ必要条件

※本研究での医療的ケア児の受け入れは全体の22%

看護師配置

訪問看護ステーションの併設があると4.6倍
看護師を1人増やすと15倍

多職種連携

地域のリソースが具体的にわかると1.2倍



- 地域のリソースと積極的に連携して医療的ケア児を地域全体で支える基盤整備の一端を担うことが期待される。
- 法制度としての適切な人員配置の基準化が望まれる。